

野尻湖発掘と静岡友の会

著者	森 伸一
雑誌名	静岡地学
巻	40
ページ	21-22
発行年	1979-11-11
出版者	静岡県地学会
URL	http://doi.org/10.14945/00025603

野尻湖発掘と静岡友の会

森 伸 一*

1948年長野県野尻湖で湖畔の旅館のご主人が発見した湯たんぼのような化石が野尻湖と象化石の出会いであった。そして1962年3月にはじまった野尻湖発掘調査は、以後1978年までに7回の発掘が行われ、ナウマンゾウやオオツノジカやインガイなどの化石、当時の人間の遺物、石器・骨器が発見された。これらの資料と野尻湖の地質、火山灰、花粉、生痕、古地磁気などの調査により、ここが3万年前から1万数千年前まで“野尻湖人”がゾウ狩りをしていた場所であることがわかり、さらに私たち日本人の祖先の生活を復元すべく将来にわたって発掘が進められる計画がくまれている。

野尻湖発掘の特徴は幼児、小学生から大人、老人までいろいろな階層の人が参加する大衆発掘であること(昨年の第7次発掘には全国から約3,000人参加)。自前の精神で発掘の諸費用、宿泊代(昨年は三食付2,600円)など参加者が負担すること。掘った化石は個人のものにならず発掘調査団が管理して研究に利用し、将来は野尻湖にできる博物館(地元信濃町が計画中)に保存することになっていること。発掘の成果は発掘中毎日発行される野尻湖新聞やまとめの会で参加者や地元の人々に報告されることなどで、子供向け青空教室や一般向け普及講演会が開かれ「発掘しながらともに学ぶ」教育の場にもなっている。

静岡県にも野尻湖友の会静岡支部がある。右の写真は第7次発掘の時の写真で静岡からは65名の会員が参加した。発掘参加とともに地元静岡県の自然、歴史を学ぶことも会の目的であるので、年に何回かの行事を今までに実施した。主な行事活動について簡単に述べる。



写真1 野尻湖第7次発掘の様子

(1)この2年間の活動の様子

- 動物園見学会(77年4月17日、日本平動物園)動物を見て進化について学ぶ。
- 骨の話(6月5日、草薙有度公民館)講師、鶴見大学歯学部小寺春人氏。
- 第1回夏のフェスティバル(8月27・28日、伊豆松崎)民宿に一泊、松崎、堂ヶ島(遊覧船借切り)の地質巡検を行った。
- 野尻湖人に挑戦(10月30日、有度公民館)原始発火法についての実習。
- カニと遊ぶ会(11月27日、遠州灘に面した菊川河口)カニの巣穴に石こうをいれてかため観察した。
- 第7次発掘にむけての学習会(78年1月22日、2月5日、3月12日、有度公民館などで)

12月下旬から1月10日まで発掘参加申し込みが行われ、参加日程、係の分担などをその後決めた。野尻湖から運んできた火山灰、地層(長さ4mの柱状図の形)をみたり、石器の学習、野尻

* 県立浜松商業高校

湖の復元図を考えたりした。

- 第7次発掘（3月25日～4月5日）静岡は2グリット（1グリット4m四方、約15人）分担、オオツノジカの掌状角、加工痕のある骨片、他の化石、遺物を発掘した。全体では1万点の出土品がありナウマン象の頭骨、加工痕のある象牙片、子持ちカワニナ、鳥のあしあと、ホオノキ、イチイなどの植物化石、ハムシ科ゴミムシ科などの昆虫化石が主なものであった。
- 日本地質学会特別賞授賞式（4月1日、清水市東海大学）野尻湖発掘が地質学会の特別賞を受け、全国の友の会を代表して静岡支部が授賞式に参加した。
- 野尻湖発掘反省会（4月16日、有度公民館）第7次発掘に関して、宿舎、受付の仕方、発掘の進み具合、グリット内の仕事の分担、一日のスケジュール、その他の反省を行い、全国運営委員会（年4回ほど開催）で発表した。
- 野尻湖発掘普及講演会（5月上旬）沼津、清水、島田の3ヶ所で野尻湖発掘の記録の映画や第7次発掘の報告を行った。
- 化石採集会（5月28日、掛川）二俣線原ノ谷駅下車、地層の観察、貝化石の採集を行った。参加者は教員7、一般5、学生39、高校生14、中学生4、小学生2の計71名で今までで最大の参加者数。
- 貝の学習会（6月25日、有度公民館）掛川で採集した貝についての名前調べなどの実習を行う。
- 第2回夏のフェスティバル（8月26、27日、川根）中川根町東海大学水川寮に泊る。
- 蜆塚遺跡見学会（10月15日、浜松）資料室、貝塚を見学。
- 富士山、愛鷹山ローム巡検会（11月19日、原）ローム観察、採集を行った。
- 鉱物の学習会（79年1月21日、東海大学海洋学部）原巡検で採集したローム層中の鉱物の名前、偏光顕微鏡の使い方などについて学んだ。
- 生痕の学習会（2月25日、有度公民館）講師、新潟大学教育学部歌代勤氏。
- 第2回野尻湖発掘まつり（3月28～30日、野尻湖にて）静岡から7名が参加。
- 象の話（5月13日、静岡）講師、京都大学理学部亀井節夫氏（野尻湖発掘調査団々長）。

以上が最近の活動で行事参加者は平均30名前後である。機関誌「野尻湖人」は年8回ぐらい発行されている。



写真2 愛鷹山ローム巡検会